

報道関係者各位

令和4年12月6日

## ～加佐中継局～ 無線回線による放送データの送受信について

本市では、コミュニティFM放送（自動起動ラジオの活用等）による緊急防災情報の提供を目的に、難聴エリア（大浦地域、加佐地域）の解消に取り組み、大浦地域（空山中継局）へは無線回線で、加佐地域（加佐中継局）へは有線回線で、放送データを送受信する体制を整え、両地域の皆様の安全、安心に大きく寄与することになりました。

そのような中、加佐中継局の無線回線については、放送データ送受信の不安定さが課題となっていました。今般、総務省近畿総合通信局において、加佐中継局の電波の不安定さの大きな原因の一つが、周辺農地の「有害鳥獣電気柵の漏電による電磁ノイズの干渉」であることが究明されました。漏電箇所の補修など必要な対策を講じたところ、一定の解決（ノイズの減少、音質の向上）に至り、現行の有線回線による放送に加え、無線回線による運用についても準備を進めているところです。

加佐中継局においては、当初（令和2年度）の介護老人福祉施設に中継局を設置する工事では、基準を満たす電波の送受信ができていないことが判明しました。令和3年度に、旧岡田上小学校に受信局を設置し中継局（介護老人福祉施設）に転送する工事を実施し、令和4年2月16日、17日、総務省への届け出に必要なデータを収集したところ、良好な電波の受信と良好な音声を確認し、その結果を総務省へ届けました。市では、これらを踏まえ、3月16日に工事完了とし、総務省から、3月18日、放送事業者に放送免許が交付されたことから、加佐中継局の設置事業のすべてを完了といたしました。

しかし、その後の無線回線による送受信の状況を継続して観測していたところ、良好な状態と不安定な状態が繰り返されたことから、市では、整備済みの有線回線に加えて、無線回線においても、より良好な音声で緊急防災情報を放送できるよう、その改善に向け取り組みを進めてまいりました。

今般、総務省近畿総合通信局において、加佐中継局の電波の不安定さの大きな原因の一つが、周辺農地の「有害鳥獣電気柵の漏電による電磁ノイズの干渉」であることが究明されました。漏電箇所の補修など必要な対策を講じたところ、一定の解決（ノイズの減少、音質の向上）に至り、現行の有線回線による放送に加え、無線回線による運用についても準備を進めているところです。



さらに、近畿総合通信局からは、回線品質を安定させ、音質をより向上させるために、変調（データを伝送する際に最適な電気信号に変換すること。）の方式を変更することについて助言をいただきました。多少のノイズが発生しても、音声の復元がしやすくなり、音質改善の可能性があるとのこと。近畿総合通信局から助言いただいた変調方式の変更について、放送事業者と協議してまいります。

## [参 考]

### 市中継局（空山中継局、加佐中継局）設置に係る経緯について

平成28年11月4日、放送事業者と「災害時における緊急情報の放送に関する協定」を締結し、平成29年12月市議会定例会において「FMまいづるは、迅速かつ的確に防災情報を伝達する手段として大変効果的であると認識している。加佐地域、大浦地域には、FMまいづるの難聴の地域がある。市としては、まずは、その解消に向け、検討をしてまいりたい。」と市としての考え方を表明しました。

即時の避難が求められる高浜発電所のPAZや津波想定沿岸地域を有する大浦地域、度々浸水被害を受けてきた由良川沿川等の加佐地域は、FMまいづるの難聴エリアにあり、経済産業省の「エネルギー構造高度化・転換理解促進事業費補助金」を活用した本市事業「地域の魅力発信等向上事業」の中で、難聴エリア（大浦地域、加佐地域）の解消に取り組んでまいりました。

本事業によりまして、両地域の皆様の安全、安心に大きく寄与するFM放送による緊急防災情報の伝達が可能となりました。今後とも「自らの命は自らが守る」、「自分達の地域は自分達が守る」という「自助」や「共助」の取り組みを支援するため、「公助」の役割となる緊急防災情報伝達の更なる充実に、鋭意、取り組んでまいりたいと考えております。

